

○八丈島のマムシグサの染色体について (飯嶋美代子) Miyoko IJIMA: On the chromosomes of *Arisaema serratum* from Hachijo island

マムシグサ (*Arisaema serratum*) には各地域毎に独特の特徴を備えた集団が知られており、従来はそれぞれ別種として扱われていたが、Ohashi & Murata (Journ. Fac. Sci. Univ. Tokyo, Sect. III, 12: 281-336, 1980) はそれらの間に多数の中間形があって区別できないことを根拠に1種内に見られる変異型であるとして1種にまとめた。日本産マムシグサの染色体数は Ito (Cytologia 12: 313-325, 1942), Hotta (Jap. Journ. Bot. 20: 269-310, 1971) によって数例が調べられ、 $2n=28$ と報告されているが、マムシグサの各変異型について十分調べられているとはいえない。一方、Nakajima (Jap. Journ. Genet. 9: 1-5, 1933) は $2n=26$ を報告しているが、資料の産地は不明であった。本研究では八丈島産のマムシグサ5個体を調べたところ、 $2n=28$ ではなく、全て $2n=26$ であることが明らかとなったので、ここに報告する。

材料として八丈島の三原山で採集された1個体の種子30粒を東京で播種し発芽後約1ヶ月たったものと、三原山で採集し東京大学理学部附属植物園で栽培したもの4個体を用いた。観察した個体は標本に作成し東京大学理学部腊葉標本室に収めた。実験方法は根端細胞を0.05% コルヒチンで 20°C 、4時間前処理後、フォイルゲンで染色し押しつぶし法で行った。

観察の結果を図1に示した。最も長い1対の染色体に2次狭窄がみられた。付随体をもつ染色体は観察されなかった。今回の観察は5個体について行われたが、八丈島に分

布するマムシグサは外部形態的に非常によくまとまっており、全ての個体の染色体数が $2n=26$ である可能性が高いと思われる。従って従来 $2n=28$ とされている本土のものと外部形態、核型などについてさらに比較検討し、関係を明らかにする必要がある。

おわりに材料を提供して下さった東京大学理学部附属植物園の邑田仁氏、研究上の便宜を図って下さった東京農業大学育種学研究室の天野実氏にお礼申し上げます。

(東京都世田谷区 [redacted])

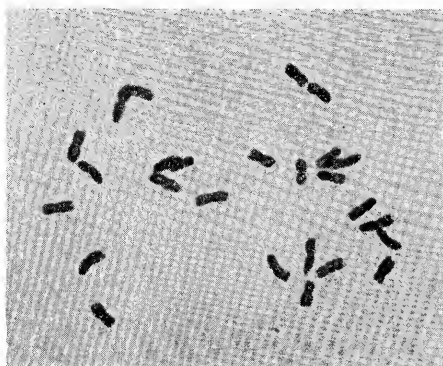


図1. マムシグサの体細胞の染色体, $2n=26$. $\times 1000$.